



能都中学校 1組卒業生



鶴川・瑞穂地区



柳田地区

平成19年 成人式

オトナになるといふこと……



269人が晴れの成人式を迎える

平成19年能登町成人式は、1月7日に内浦第二体育館で行われました。今年成人を迎えたのは、昭和61年4月2日から昭和62年4月1日生まれまでの男性152人、女性117人の269人で、式には239人が出席しました。式典では、持木町長が「みなさんの航海が大きな夢と希望を乗せた船出となるよう祈ります」と新成人に対するはなむけの言葉を贈り、新平議長は「失敗を恐れず、何事にもチャレンジしていろいろな社会体験をしてください」と祝辞を述べました。

新成人を代表して、姫の堂前則子さんが「必ず投票にいきます」と明るい選挙推進宣言をし、不動寺の山田幸司さんが「交通事故の加害者にも被害者にもなりません」と交通安全宣言をしました。また、天坂の安多麻里さんが「今日までわたしたちを温かく見守ってくれた家族や社会に対し、微力ながらも貢献していきたい」と誓いの言葉を述べました。アトラクションでは、柳田地区で活動しているバンド「うそっぷ」が2曲を披露しました。



◀誓いの言葉を述べる安多麻里さん



松波地区



小木地区



能都中学校 3組卒業生



能都中学校 2組卒業生



鍛冶職人

ほし ば か つ じ

干場勝治さん (60歳・宇出津)

鍛

治職人。それは鉄を加工し、さまざまな刃物を生み出す職人の称号である。石川県内では、年間を通じて鍛冶を行う職人は数人といわれている。この鍛冶という仕事を明治41年から3代にわたって守り続けているのが、宇出津の干場勝治さんだ。

小さいころから父親の作業を見て育った干場さんが、本格的に鍛冶職人の道に進んだのは昭和37年、16歳のときだった。以来44年間、鉄をたたき刃を研ぎ続けてきた。ひとつの製品ができるまでに数々の工程を踏む鍛冶の仕事は、「一通り覚えるまでに15年から20年はかかる」という。

秋から冬にかけては主にクワを作るといふ干場さんによると、地域や土質によってクワの形はさまざまのこと。

「海側だと波並までは先が丸く、矢波から穴水にかけては先が四角いクワを使う。山側だと柳田までが丸く、町野では四角いクワになる」と話す。

夏場には海のものを作るといふ干場さ

んが特に力を入れているものが『マキリ』と呼ばれる小振りの包丁。「マキリは漁師の万能包丁。最近は釣り人にも重宝されている」ということだ。

干場さんに鍛冶の仕事について聞くと「鉄がいろいろな形に変化していくのは楽しいし、ここでは海の道具と山の道具の両方作ることができるので変化がありおもしろい」と話してくれた。

「今でも作業の一つ一つが勉強です」と話す干場さんは、全国の鍛冶先進地や見本市などに足を運ぶなど研究も怠らない。視察に行つて「先進地の物は、デザインに力を入れている」と感じたという。農作業の機械化などでクワやカマの需要が減少している中、鍛冶職人の生き残りをかけて「これからはデザイン性のあるマニア向けの物も作る必要がある」と考えている。

しかし「どれだけ機械化が進んでもクワやカマがなくなることはない」とも話す干場さん。「とにかくいいものを作る

こと。そしてお客さんには大切に使うてもらいたい」と願っている。

鍛冶職人の最高峰である刀鍛冶も使うという松炭を使用し、焼入れ（仕上げ前の刃物に熱を入れる作業）に使う油は、入れ替えることなく代々継ぎ足すなど、職人としてのさまざまなこだわりを見せる干場さんが最もこだわっていることが『鉄』ということだ。最近はステンレスなど鉄以外の刃物も増えているが「鍛冶屋は鉄でできる物の便利屋です」ときっぱり。

『カン、カン、カン…』

宇出津郊外にある作業場では、干場さんが鉄をたたき小気味良いリズムが響き渡る。

「鉄を加工する最も良い状態は一瞬しかない。その状態を見極めることは、鉄と火とわたしの戦い」と話す干場さん。

これからも『鉄』と向き合い、『鉄』をたたき続ける。

鍛冶屋は鉄でできる物の便利屋です

申告受付スケジュール

月	日	曜	内	容
2	5	月	年金説明会	能都庁舎 4階ホール 9:30～12:00、13:30～16:00
	16	金	白丸地区	白丸公民館 9:30～16:00
	19	月	高倉地区	高倉出張所 9:30～16:00
	20	火	神野地区	神野公民館 9:30～16:00
	21	水	瑞穂地区	瑞穂公民館 9:30～16:00
	22	木	不動寺地区	不動寺公民館 9:30～16:00
	23	金	鶴川地区	鶴川支所 9:30～16:00
	26	月	税務署相談	能都庁舎 4階ホール 9:30～12:00、13:00～16:00
	27	火		
28	水			
3	1	木		
	2	金		
	4	日	休日申告受付	能都庁舎のみ 9:00～16:00
	5	月		
	6	火		
	7	水		
	8	木		
	9	金		
	11	日	休日申告受付	能都庁舎のみ 9:00～16:00
	12	月		
	13	火		
	14	水		
	15	木		

【全地区】
能都庁舎2階ロビー
9:00～16:00

【内浦地区】
内浦庁舎3階第1会議室
9:00～16:00

【柳田地区】
柳田情報センター1階研修室
9:00～16:00



■インターネットでらくらく確定申告！
国税庁のホームページ（<http://www.nta.go.jp>）で確定申告書を作成し、プリンタで印刷（白黒印刷でも可）したものを添付書類とともに税務署へ提出できます。
【郵送先】〒928-8501 輪島市河井町15部90-16 輪島税務署

所得や税額の計算の仕方、申告書の書き方などで分からないことがありましたらお気軽に最寄りの税務署、税務相談室、役場税務課までお問い合わせください。
■輪島税務署 ☎ 0768-22-2241 ■税務相談室 ☎ 076-263-8080 ■役場税務課 ☎ 62-8505

所得税 町民税の 申告はお早めに！

平成19年度の町民税・県民税および平成18年分の所得税の申告受付は2月16日(金)から3月15日(木)までです。
申告に必要な書類をそろえ、期限内に申告できるように準備しましょう。



■町民税の申告について

平成19年1月1日現在、能登町に住居登録している方で、20歳以上の方に申告書が配布されます。申告は国民健康保険税と介護保険料の申告も兼ねています。
申告をしなかった場合、軽減措置が受けられないなどの不利益が生じる場合がありますので昨年収入がなかった方も必ず申告しましょう。

■申告に必要なもの

- 申告会場へ行く前に、忘れ物がないかチェックしましょう！
- 印かん（認め印）
 - 配布された町民税申告書（税務署から送付された方はその申告書も）
 - 平成18年中の収入の分かる書類（給与・報酬・賃金・年金のある方は源泉徴収票。なくした方は再発行してもらいましょう）
 - 生命保険料・損害保険料控除などを受けられる方は控除証明書
 - 国民年金保険料を申告する方は納付額の証明書または領収書
 - 障害者控除を受けられる方は障害者手帳・療養手帳など確認できるもの
 - 医療費控除を受けられる方は医療費の領収書、補てんされる金額の明細書
 - 住宅借入金等特別控除を受けられる方はその必要書類
 - 所得税の還付を受けられる方は本人名義の金融機関名、口座番号がわかるもの
- ※申告期間中は大変混雑し、長時間お待たせすることがありますので時間に余裕を持ってお越しください。

町

でみかけるたくさんの方の外国人。かれらの多くは、インドネシア、タイ、中国などから日本の技術を学ぼうと遠く親元を離れてがんばっている若者たちです。

能登町には、函館、八戸に並ぶ冷凍スルメイカの日本3大水揚げ港である小木港があり、中型イカ釣漁は、町の基幹産業のひとつとなっています。イカ釣漁の従事者不足や高齢化など、日本人だけの操業が年々厳しさを増してきた平成14年、小木漁協と姫漁協(当時)は、インドネシアから漁業研修生を受け入れることにしました(※第1次の受け入れ先は自治体である能登町となり支援しています)。

受け入れ当初は16人だったこの研修生は、現在79人までその数を増やしました。ここまで数が増えた理由は、受け入れる船主、遠く日本で働く研修生の両方にメリットがあったからです。受け入れ期間は1人最長で3年間。一隻のイカ釣船に平均3人の研修生が乗り組んでいます。

主に6月から12月に日本海で操業される中型イカ釣漁の今年度の水揚げは過去最高の水揚げとなりました。長期間にわたる船の上での生活、寝る間を惜しんでの作業、同乗する日本人と同様に、彼らも一生懸命作業した結果がこの水揚げに表れています。

今回、平成16年に受け入れた第3次研修生21人が、3年間の研修期間を終え帰国の途につきました。島国のインドネシアは漁業が盛んだとはいえ、日本のように設備が整っているわけではなく、日本で学んだことが帰国後すぐに活かされるような環境ではないといえます。

しかし、自分のため、家族のために異国の地でがんばった3年間は、彼らのこれからの人生の大きな財産になるのではないのでしょうか。

たくさんの方の思い出とお土産をもつてインドネシアに帰ります。

第3次インドネシア漁業研修生が、3年間の研修期間を終え帰国しました。

What kind of country is INDONESIA? インドネシアってどんな国?

インドネシアは東南アジアにある島国で、正式な国名はインドネシア共和国といいます。首都はジャワ島のジャカルタ。5,000 km以上と東西に非常に長く、赤道にまたがる13,700もの大小の島により構成されます。人口は約2億4,000万人。現在世界第4位の人口大国です。

地震国であり、2004年のスマトラ島沖地震、2006年のジャワ島中部地震では、甚大な被害を被りました。



国旗(赤と白)

研修生の受け入れを担当している県漁協小木支所の滝参事にお話を伺いました。

全国で同じように研修生を受け入れしているところはありませんが、漁業に関してはインドネシア人がほとんどです。インドネシアには水産高校がたくさんあり、漁業が盛んなことからわれわれが求める人材が豊富なのです。

毎年9月ごろに船主に希望を聞いて、選考のためにインドネシアに行きますが、現地では希望者が3倍から5倍はいます。今年90人ぐらいいままで増えようです。

イカ釣漁は1隻8人から9人で操業しているので、将来的には1隻あたりの研修生が4人くらいまで増えるかもしれません。

彼らは日本に来る前に3カ月間日本語を勉強してきており、日本でも2カ月半勉強します。ひらがなや簡単な日本語ならば問題なく読み書きできます。今までの言葉の壁で大きな問題は起きていません。



滝 繁治さん(たき・しげじ)

石川県漁業協同組合小木支所参事。研修生の日本での相談役として、仕事からプライベートまでサポートしている。



3年間

の研修期間を無事に終了し、1月12日には修了証授与式が行われました。



バユ・ウィドドさん(左)、アリフ・シャイフディンさん(中) トフィック・ヒダヤトさん(右)

3人ともに27歳。質問すると笑顔で応える、明るくて素直な好青年という感じがしました。インタビューの日(1月15日)の夜に成田に向けて出発。東京で1日過ごしたあと、3年ぶりに家族の待つインドネシアに帰国しました。

研修生は小木の2カ所で見学をしています。寮におじゃまし、帰国直前の卒業生3人にインタビューしました。

Q 大変だったことは?

A 最初の2カ月は言葉もよくわからないし本当に大変でした。2年目、3年目は慣れたので大丈夫でした。

Q 日本の印象は?

A 街中がとてもきれいなことにびっくりしました。それとゴミの分別に苦労しました。

Q 帰国したら何をしますか?

A 結婚したいです。

仕事はしばらく休んでから始めて、チャンスがあればまた日本に來たいと思っています。

Q 将来の夢は?

A お金持ちになりたい。

Q 家族へのお土産は?

A 浴衣、人形、デジタルカメラです。カメラはインドネシアで買うほうが高いです。

九十九ドラマチックカンパニーが公演 夢を創り出す子どもたち

小木地区の小中学生 15人で構成される演劇クラブ、九十九ドラマチックカンパニー「きらめき☆(スターズ)」が12月25日、小木水産会館でクリスマス公演を行いました。舞台では、代表の持平京佳さん(小木小6年)脚本による「七色に輝いたあの日」という創作劇が披露されました。約4カ月間重ねてきたという練習の成果が表れた演技は、集まった観客ら200人を魅了しました。また、1月14日に県立音楽堂で開催された「子どもドリームフェスティバル」でも発表し、関係者からも驚くほどの成長ぶりと迫真の演技を見せてくれました。



人間を憎む魔法使いが大切なことに気付くという物語

松波中学校進路学習「職業人講話」 課外授業よろこ先輩

働くことの意義について学ぼうと「職業人講話」と題した総合学習の授業が1月16日に松波中学校で行われました。同校の卒業生4人が講師に招かれ、職場での苦労や働くことの喜びなどについて講義や意見交換が行なわれました。参加した1年生38人は、将来の夢や目標を持って学校生活を送ることの大切さと、今自分たちがやるべきことを見つめながら、講師のみなさんにさまざまな質問をしていました。ユーモアあふれる体験談も披露され、生徒たちは時折笑い合いながらも自分たちの将来について真剣に考える1日となりました。



後輩たちの未来のためにメッセージを伝える講師のみなさん

寒さに負けず、真剣な表情で筆を走らせる児童



新春書き初め大会 日本の伝統行事が心を育む

1月13日、能都体育館で能登町新春書き初め大会が行われ、町内の小学生87人が参加しました。参加した児童は、冬休みからずっと練習してきた成果を十分に発揮しようと真剣に用紙に向かっていました。45分間で与えられた課題を3枚書き上げ、その中の1枚を提出しました。

■書き初め大会結果 ○能登町長賞 東手翔太(宇出津小6年)、○議会議長賞 山本祐実(宇出津小2年)、○教育長賞 大屋健一(鶴川小5年)、○北國新聞社長賞 小谷内優志(真脇小3年) ほか金・銀・銅賞各3人

法務大臣からの感謝状を受け取る川島さん



人権擁護委員感謝状贈呈式 人権の大切さを伝えた9年間

人権擁護委員として地域の人権擁護活動に貢献した川島蘭子さん(宇出津)に対し、1月16日に法務大臣から感謝状が贈呈されました。

川島さんは、昨年12月31日までの3期9年間にわたり人権擁護委員として活動してきました。贈呈式では、持木町長から感謝状が贈呈され「これからも町の人権擁護活動にご協力ください」と感謝の言葉が贈られました。感謝状を受けとった川島さんは「勉強させていただき、たくさんの人とも出会えて感謝しています」とこれまでの活動を振り返っていました。

波並地区左義長 伝統ある左義長、地区の繁栄を祈る扇祓い

▶扇を持ち「扇めでたい末繁盛 家も蔵も建つように 善銭グワッサーリ」と歌いながら町内をまわる子どもたち

▼波並港に飾られた左義長竹。この火で焼いたお餅を食べると病気をしないといわれている



無病息災や文字の上達などを願う祭り左義長。1月14日には波並地区でもこの行事が行われました。波並の左義長は「扇祓い」と呼ばれ、白い扇3枚を組み合わせた円にしたものを竹竿につけ、子どもたちが縁起の良い口上を歌いながら家々をまわります。町内をまわり終えると港に集まり、正月飾りなどを山積みにした真ん中に左義長竹を立て火をつけます。竹には子どもたちの書き初めなどが飾られています。その竹が海側に倒れば大漁、山側に倒れば豊作になるといわれ、今年は海側に倒れました。昭和57年に半世紀ぶりに復活し、保存会により現在まで継承されている「扇祓い」。郷土愛を育む大切な行事として、これからも守り伝えて欲しいものです。

能登町ふれあいドッジボール大会 勝利にむけて一致団結!

県内でもトップクラスの成績を納めている町内のドッジボールクラブ。12月25日、柳田小学校で交流と互いの競技力の向上を目的とした能登町ふれあいドッジボール大会が町商工会の主催で開催され、町内外から7チーム、約100人が参加しました。5分間という短い時間で全力を出し切るドッジボールは、チームワークが勝利の最大の鍵となります。

大会終了後には保護者のみなさんが作ったカレーライスを食べながら親睦を深めていました。【大会成績】優勝 珠洲クラブ 2位 九十九クラブ 3位 小木クラブ



白熱した試合が展開され、会場は熱気に包まれました

幻想的な雰囲気の中、力強いバチさばきを見せる保存会員



彌樂太鼓初打ち奉納 力強く太鼓の音を轟かす

宇出津・八坂神社では、毎年1月7日の午前0時に彌樂太鼓保存会による初打ち奉納が行われます。平成17年9月には、町の無形民俗文化財に指定されたこの彌樂太鼓。今年も小雨のちらつく寒中、神恩感謝・所願達成の願いを込めて初打ちを行いました。彌樂太鼓保存会代表の本谷順一さんらが玉串を捧げ保存会のさらなる活躍と安全を願った後、境内に設置された特設会場で鬼の面をつけた会員らが力強い太鼓を打ち鳴らしました。深夜にもかかわらず、境内には約50人が見物に訪れ、迫力ある太鼓に見入っていました。